

高質な田舎

5月、日本創成会議が公表した試算結果は衝撃的であった。

2040年に、若年女性の流出により、全国の半数近い896市区町村が「消滅」の危機に直面するというものである。さらに、都道府県別で消滅可能性都市の割合が最も高いのが96.0%の秋田県だというのだ。試算とはいえ、過酷な現実を突きつけられたショックは大きかった。

しかし、秋田県の第2期ふるさと秋田元気創造プランの中に、「高質な田舎」という言葉を見つけた時、いい詩を読んだ時のような感動を覚えた。

その一部を紹介する。

また、秋田には、田舎であればこそ、地方であればこそその強みもあります。豊富な山菜はまさに自然の恵み、これをふんだんに食することができるのは大きな贅沢であり、美しい田園風景や郷土色あふれる多彩な文化・芸術は、都会にはない価値を見いだすことができ、隣近所と心を通わせながら潤いのある生活が営めることは都会人にはあこがれに映るのではないのでしょうか。

ますます過密化し、ストレス社会化するこれからの都市社会の動向を見据えると、秋田は都市部からの移住者を受け入れる空間として最適なのもかもしれません。広大で豊かな自然空間、文化レベルの高さ、多彩な食文化、高度で多様な産業技術、加えて素朴な中にも教養あふれる県民、まさに我がふるさとに「高質な田舎」を思い描きつつ、経済的な側面だけでは測れない、潤いと真の豊かさを実感できる施策にもバランスよく取り組み、活力ある「ふるさと秋田」の創造に全力を傾けてまいります。

確かに、秋田は日本一人口減少が深刻な田舎である。しかし、「高質な田舎」であることも、また事実である。この由利本荘・にかほ地区も、鳥海山を中心とする豊かな自然とそこで育まれた豊かな文化があり、学力日本一の子供たちが暮らしている。世界に誇れる田舎である。

「田舎であることはいいことだ」という価値観を持てるのは、ふるさとである田舎で、その良さを実感し、様々な感動体験をした者かもしれない。今まであなたは、この田舎でどんな感動を経験してきましたか。そしてこれから、このふるさと秋田を、さらに「高質な田舎」にするため、何をしますか。

第35代米国大統領 John F. Kennedy の大統領就任演説の言葉を借りて、次のメッセージを君たちに送る。

My fellow students of Honjo Senior High School: ask not what your hometown can do for you, ask what you can do for your hometown.

